

平成 29 年度 第 1 回燕市生涯学習推進協議会 会議録（要旨）

日 時： 平成 29 年 8 月 1 日（火）午前 9 時 30 分～11 時 00 分

会 場： 燕市市民交流センター 3 階 多目的ホール

出席委員： 石附行子委員、小野塚美鈴委員、田公美知子委員、土屋久栄委員、中島純委員、西山功委員、福田智子委員、真嶋陽子委員、水野晶子委員、柳原康浩委員、山宮義朗委員、村山幸一委員

欠席委員： 滝本一也委員

事務局： 燕市教育委員会 仲野教育長、山田教育次長、宮路社会教育課長
本間副参事（生涯学習推進係長）、浅野主任
杵淵統括指導主事（学校教育課）、本田課長補佐（文化会館）
笠巻副参事（生活環境課）、本間(み)副参事（中央公民館）
高野保健指導専門員（健康づくり課）、内田主事（子育て支援課）
外山主事（地域振興課）

報道機関： なし

傍聴者： なし

議 題： 3. 報告

燕市生涯学習人材バンクについて …… 資料 1-1、1-2、1-3

4. 協議

第 2 次燕市生涯学習推進計画における平成 28 年度の実績値と平成 29 年度の目標値について …… 資料 2

- (1) 輝くつばめを担う子どもの育成
- (2) 多様な学習ニーズに応える学習機会の充実
- (3) ふるさと燕の芸術文化活動の振興
- (4) 生涯スポーツの推進と健康づくりの推進
- (5) 生涯学習社会を支える環境づくり

[以下、会議録(要旨)]

3. 報告

生涯学習人材バンクについて …… 資料 1-1、1-2、1-3
《事務局説明》

○委員

2 点質問させていただく。

1 点目、5 人以上の団体の利用ということだが、2 人とか 3 人だとどうなるのか。

2 点目、事業実績で子どもの利用が多いがこの認識についてどう考えているのか。

○事務局

1 点目については、個人の利用は控えさせていただきたいということ。団体の利用を前提とした中で、5 人というのをベースとしている。

また、2点目についてだが、本事業は平成28年度の10月から運用を開始したばかりで、市民への事業周知がまだ足りない状況である。事業実績を見ると、児童館の利用が多くなっているが、公共施設を中心にチラシや登録講師リストを設置した中で、児童館から利用が出てきたものである。今後は、民間の団体の方々など、より多くの団体の方々から利用していただけるよう、周知活動を行っていく。

○事務局

補足であるが、この事業の周知として今年度は、自治会の行事やイベントで使ってもらえるように自治会協議会で説明を行っている。また、まちづくり協議会の方々へも本事業について活用のお願いと説明を行っている。

いずれにしても、現状では青少年の利用に偏っているので、大人の方々からも利用していただけるよう、周知活動を行っていききたい。

○委員

この事業は、お願いすると有料なのか無料なのか。

○事務局

まず、市で講師と利用者のマッチングに係る仲介料はいただいている。

そして、講師の登録者が現在69名いるが、その方々によって謝金はいらないが費用弁償だけもらいたいという方もいれば、基本は無料だがその講座の内容によって材料費だけいただきたいという方、謝金は1時間当たり1,000円もらいたいという方など、さまざまである。

ただ、基本は有償ボランティアの範囲で講師をしていただく事業なので、あまりにも高額な報酬を求める方の登録などはご遠慮いただいている。

○委員

それらの情報はインターネット等で見れるのか。

○事務局

ホームページに登録講師リストを掲載しており、そこには各講師の謝金や費用弁償の有無について記載されている。

要相談としている方もいるが、いらぬ方は不要と書いてある。

○委員

この事業のポスターなどは、公民館に貼ってないのか。

○事務局

公民館についても、全公民館に登録講師リストの冊子、チラシ、利用申込書、講師登録申請書を設置している。

○委員

講師登録申請書は見たことがあったが、どのような方がいるか大きく張り出されていると分かりやすく良いと思うがいかがか。

○事務局

資料1-1の裏面に「生涯学習人材バンクの主なメニュー」とある。これは今回の委員会用に作成した資料であるが、このような形で施設に貼り出すことを検討してみたい。

○事務局

補足になるが、5/1 号の広報つばめに「生涯学習人材バンクの主なメニュー」とともに利用の仕方などを事業周知のために掲載させていただいた。

委員から指摘もいただいたので、今後どういう形で施設に掲示できるか検討させていただく。

○委員

俳句の会で活動を行っているが、このリストに載っていない。載せるには申請するということなのか。

○事務局

講師登録リストの冊子に掲載されている方々は、登録申請書を提出いただき、この冊子に掲載することに同意をいただいた方ということになる。したがって、申請書をいただいている方の掲載はしていない。

4. 協議

第2次燕市生涯学習推進計画における平成28年度の実績値と平成29年度の目標値について …………… 資料2

(1) 輝くつばめを担う子どもの育成

《事務局説明》

○委員

1点目、成果目標が90%以上が概ね達成ということだが、それで良いのかどうかということ。

2点目、平成29年度の目標値は90%達成するものとして設定された目標値なのかということ。

3点目、平成29年度の目標値が、前年度の達成率によって幅が大きく根拠が明確でないと感じるがいかがか。

○事務局

1点目の90%以上でいいのかということだが、もちろん100%以上を目標としてやってきているが、今回の資料作成にあたって90%以上の達成率のものを概ね達成とさせていただいたものである。

2点目の平成29年度の目標値は、経過地点の目標値ということで、最終的には最終年度の目標値達成のために努力しているということである。

3点目の目標値の根拠であるが、担当課の方でこの講座は何人でこの講演会は何人という形で積上げる形で算定している。

○委員

Jack&Betty 教室の参加者数で、目標が達成できなかった理由として、子どもの減少があるということであったが、一方で目標値は増加している。子どもが減少しているのであれば、減少した分を事業の拡充等により取り戻すというのが普通な気がするがいかがか。

○事務局

Jack&Betty 教室は今年度対象を拡大し、今まで5年生以上が対象であったのを4年生まで拡大している。これは、今現在5年生以上を対象としていた英語教育が、これから中学年(3・4年生)までに広げられるということを見込んだ事業展開である。

今年度は、対象に4年生が加わり増えたので、目標値はその分20人上積みさせていたのだということになる。

○事務局

補足で、この計画の目標値は計画策定時に最終年度の目標値を設定する訳だが、年度毎の実績を見ながら事業拡充などの対応を行うので、これに合わせて年度毎の目標値も見直ししている。

また、先程委員から質問のあった達成率が90%以上で良いのかということだが、この達成率の考え方は自治体によっても様々である。その中で、新潟県の第2次生涯学習推進計画では、90%以上が概ね達成という考え方をしていたので、これに準拠したものである。

○委員

Jack&Betty 教室の対象が国の動きを見ながら4年生まで広げたということだが、今後3年生以下まで広げることもありえるのか。

○事務局

新学習指導要領で小学校3年生から英語教育の対象となっているので、Jack&Betty 教室の対象についても小学校3年生も見据えている。ただ、人員の配置関係であったり、応募いただいた数などの問題もあるので、まずは、4年生まで対象を広げるということで今年度、対象を拡大したところである。この実績を含めて来年度以降の3年生までの対象拡大を検討していくこととなる。

○事務局

補足であるが、小学校3年生からの英語教育について国の方でも平成32年度に向けて29年度は準備期間、平成30年度・31年度は移行措置期間としている。燕市についても、今年度の実績を見ながら、平成30年度・31年度に移行できるかの検討を進めていきたいと考えている。

また、いままでのJack&Betty 教室の内容が英語学習に偏っていると感じたので、子どもたちが楽しく英語を学べるようなカリキュラムを導入した。こうしたこともあり、平成29年度は120名の目標値に対して、今現在で169名となっている。

この実績や人員配置等の課題も踏まえながら平成32年度の最終年度に向けた移行については、様々な形で協議が必要と考えている。

○委員

Jack&Betty 教室は子どもたちが学年問わず同じ教室でやるのか。

○事務局

4年生は午後1時から2時までの1時間で教室を行っている。これは、小学校の授業が1コマ45分であることを考慮し、試験的に1時間としたものである。

また、5年生・6年生は、一緒に教室で午後1時から3時までの2時間で、休憩を入れながら概ね50分単位を2回行っている。

そして、中学生は、3時から5時までの2時間で1年生から3年生まで同じ教室で行っており、内容はさらにコミュニケーションに特化したものを組み込んだりしている。

○委員

講師先生は、日本人の方か。

○事務局

主にアメリカ、イギリスの方で3名のALTを配置している。また、日本人英語指導助手ということで、英会話が堪能な日本人を前年度から1名プラスして6名配置している。

○委員

子育て支援講座のNP (Nobody's Perfect)・BP (Baby Program)への参加人数が54.4%ということだが、BPの反響があまりないという話も聞く。燕市でのBPの参加状況はどのようになっているのか。

○事務局

BPは平成26年度から実施しており、平成26年度は2講座、平成27年度、28年度は1講座実施している。平成29年度はファシリテーターの確保ができたということで、2講座の実施となっている。また、定員についても今までは10組であったが、平成29年度は2講座のうちの1講座を16組定員としているため、参加人数は増加する見通しと考えている。今年度のNP・BPはすでに開始しており、現段階でNP・BP併せた延べ参加人数で98名となっている。

○委員

ファミリー・サポート・センターについても達成区分が「×」となっているが、これについては、いかがか。

○事務局

燕市のファミリー・サポート・センターは、依頼会員が平成28年度末時点で220名、提供会員が89名いる。依頼会員の方が提供会員よりも多いが、提供会員が見つからないといった事例は起きていない。

(2) 多様な学習ニーズに応える学習機会の充実

《事務局説明》

○委員

「障がいのある人の自立と社会参画に向けた就労等の支援」というところであるが、今、学校現場で発達障がいの子どもの年々増え、問題になっている。最低でも各クラス2人程度はおり、医者診断を受けている子どももいる。その子どもたちの就労支援を生涯学習推進計画に入れていかないといけないのではないかと考えている。

そのあたりの考えをお聞きしたい。

○事務局

燕市の障がい者基本計画で就労支援施設の利用者数を伸ばしていこうということで掲げている。これを受けて生涯学習推進計画でも就労支援施設の利用者数を引用し、地域の就労支援事業者と連携して数値を伸ばしていこうと考えている。日常生活の自立と社会参画、生涯学習を結び付けていける取組みを担当課と連携して今後検討する。

(3) ふるさと燕の芸術文化活動の振興

《事務局説明》

○委員

銀の神輿が中央公民館の工芸室のある新しい棟に設置されたので、非常に良いことである。金の神輿は史料館、銅の神輿は燕三条駅に設置されている。一つの施設に集約するのではなく、分散して設置することでふるさと燕の神輿をいろいろな方に見てもらえるので、大変良いことと思う。

(4) 生涯スポーツの推進と健康づくりの推進

《事務局説明》

(質疑なし)

(5) 生涯学習社会を支える環境づくり

《事務局説明》

○委員

高齢化社会が進む中で、公民館の利用者数を伸ばしていくのは非常に厳しいのではないかと。

○事務局

高齢化社会が進んでおり厳しい状況であると考えている。

しかし、生涯学習を積極的に推進し、自ら学んだことを地域に活かしていただき、そこから学習意欲に繋がってくるという面もあるので、目標として掲げている以上、その達成に向けて努力していきたい。

○委員

市民教養講座からサークル化したということは市から独立したものということか。

○委員

市民教養講座は市が企画した講座を1年間で数回受講していただくものだが、その講座が終了した後に参加者の方がサークルとして自立したいといった場合に、そこから1年間だけになるが、施設の予約等の業務を市で代行するものになる。その他名簿や活動日程の作成の手伝いも市で行う。また、社会教育関係団体への登録や新メンバー募集を広報つばめに掲載する手伝いも行っている。

○委員

Jack&Betty 教室の話が先ほどあり、楽しみながら英語教育を行っているということだが、この教室だけのやりっぱなしになるのか。成果や発表の場はあるのか。

○事務局

英語スピーチコンテストを Jack&Betty 教室の生徒に対象を限定したものではないが、開催している。そのスピーチコンテストで優秀な成績を収めたものを親善大使として海外へ派遣し、燕の PR 活動を現地で行ってもらったりしている。

また、これとは別になるが、英語検定の受験料の半額補助も行っている。

○委員

英検を受けるほどのレベルになるのか。

○事務局

小学生が準 2 級に合格する例もあり、高校卒業程度の力をつけた児童もいるという話も聞いている。

5. 意見交換

○委員

先ほど、障がいを持った子どもの話があったが、その子どもの保護者の方々が集まる場所がないのではないかと思うがいかがか。

○事務局

生涯学習推進計画の中では、そのような指標は設けていない。障がい者の支援施設等でそのような場の提供をしている場合もあるかと思うが把握していない。

担当課から情報を聴いて確認してみたいと思う。

○委員

共働きで子どもの面倒が見られない親は児童館（児童クラブ）を利用しているが、発達障がいの子どもの面倒は児童館（児童クラブ）を利用できない。民間の団体では、発達障がいの子どもの面倒も見てくれるところも出てきていると聞いているので、将来的に市とタイアップしていけたら良いのではないかと思う。

○事務局

以前、社会福祉協議会で発達障がいの子どもの面倒を見るようなことをやっていたのが、民間にシフトしてきていると聞いている。いずれにしても、担当課にこの場に出た意見を伝えて検討してもらいたいと思う。

○事務局

児童館単体で発達障がいの児童の預かりは難しいかもしれないが、児童クラブが併設されている場合は、児童クラブで加配指導員を付けて預かっている例も実際ある。

閉会